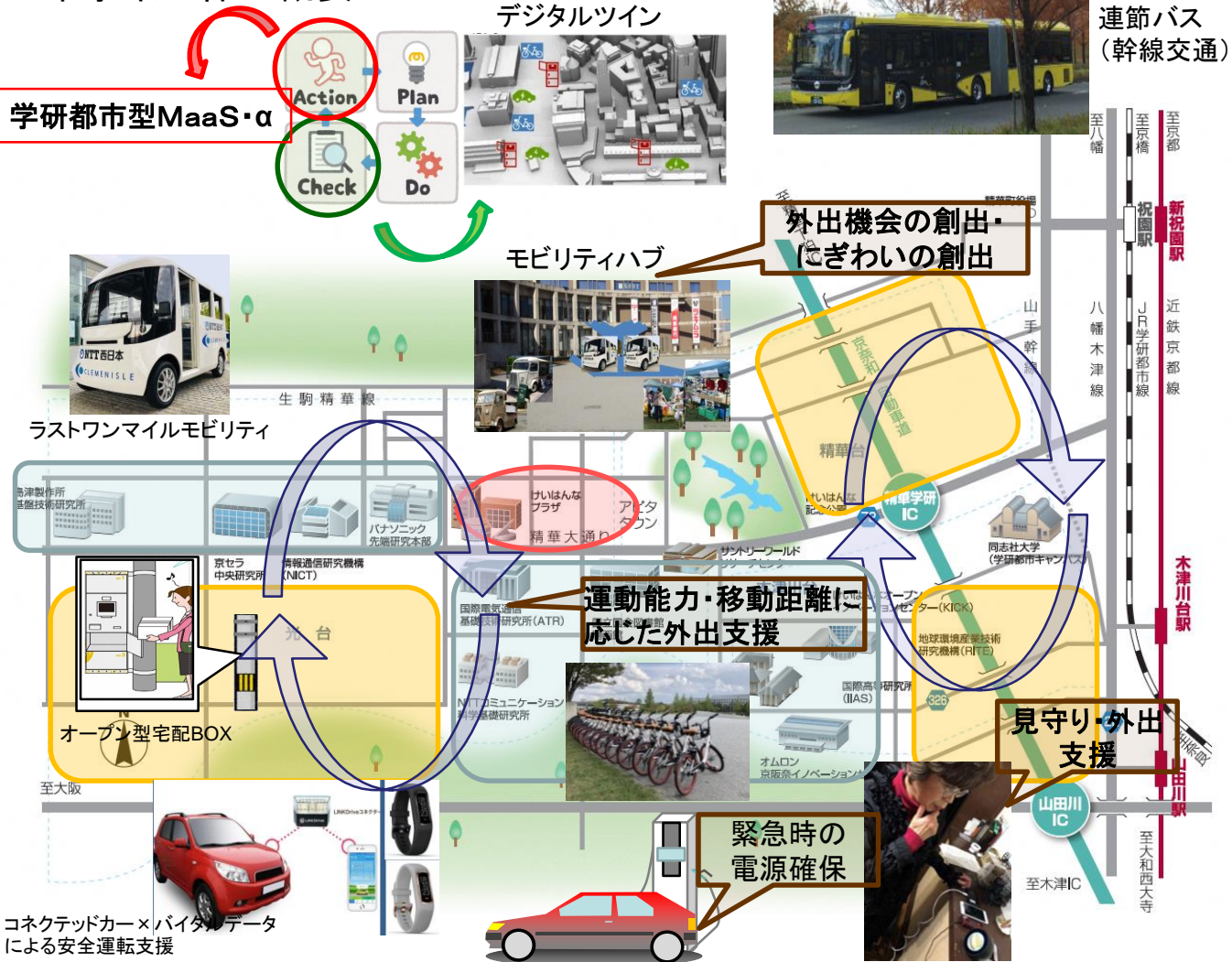


- 多様な交通手段を確保し、その先にある目的(病院・買い物・観光周遊など)との一体性を高めることでサービスの付加価値を向上し、地域の活性化を図る
- けいはんな学研都市にて多数の研究・実証実験を行っており、次々とPJに組み入れ地域の課題を解決



■ 本事業全体の概要



- 対象区域の概要**
- 名称 けいはんな学研都市 (精華・西木津地区)
 - 面積 約506ha
 - 人口 約21,300人
- 対象区域のビジョン**
- ・世界の未来像を提示
 - ・科学技術のイノベーションの創造拠点となる
 - ・科学技術と生活・文化が融合した未来社会を先導
 - ・安全・安心で高質な都市環境を備える

■ スマートシティの目標

■ 高齢者のコミュニケーション・見守りの仕組み【2023年度末目標】

- a) AIデバイス利用登録者世帯 (全世帯の10%がAIデバイスを活用)
 b) 地域健康ポイントによる高齢者の外出機会創出
 (高齢者世帯の3%が地域健康ポイントを獲得)

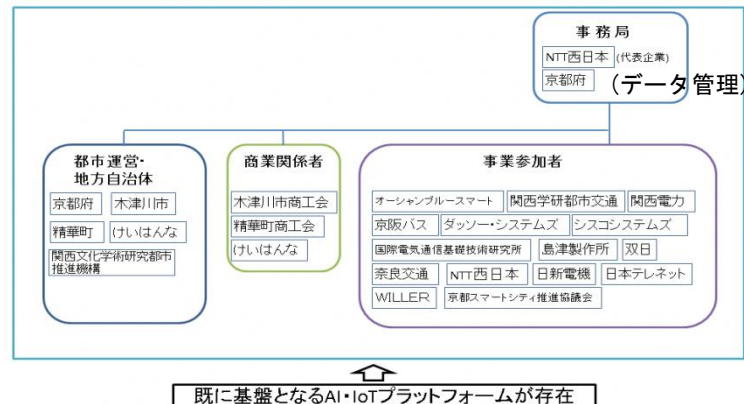
■ イノベーションの推進【2023年度末目標】

- a) 企業の就業者のマイカー通勤率 (現状40%から35%に転換)
 b) 地域住民の移動におけるマイカーによる買物利用率
 (現状81%から70%に転換)
 c) CO₂排出量 (-327トン/年の削減)

■ 安心・安全なまちづくり

- a) 地域の防災拠点等の防災力強化(1箇所の設置 2022年度末)
 b) 地域への宅配ボックスの設置(実証)(3箇所の設置 2020年度末)

■ 運営体制



■ 導入技術(抜粋)

ラストワンマイルモビリティ

- 施設間の多様な移動手段の確保による研究機関・企業の垣根を越えた交流促進
- 主要幹線道路の路線バスの最適化・再配置の検討によるさらなる利便性向上
- 路線バスとの交通結節点を、地域住民が集う交流の場となるモビリティハブとして整備(中継点から目的地へ)

GPS搭載シェアサイクル

- 施設間の多様な移動手段の確保による研究機関・企業の垣根を越えた交流促進
- ラストワンマイルモビリティとの連携で個人の運動能力に応じた利用の選択が可能

コネクテッドカー×バイタルデータによる安全運転支援

- 脈拍等をAIで解析
- 運転手や車両が起因する事故の事前把握

AIデバイスによるライフサポートサービス

- 服薬・食事・健康管理を支援
- 運動能力に応じた外出支援
- 会話ログの分析による体調管理

電柱吊りオープン型宅配ボックス

- 電柱の「電源がある」「どこにでもある」という点を活かし、住宅地に面的設置
- 物流効率化により、再配達コストおよびCO₂排出量を削減

デジタルツイン

- 様々な施策や事業を横断的に把握・分析
- モビリティの利用状況や既存の交通機関との接続状況の可視化
- 単一のシステムで横断的に可視化、分析